青森発「人生の最期まで口から食べる支援」
～市民公開講座「食事サポーター」認定ハンズオンセミナー開催～

青森慈恵会病院　　院長　　丹野 雅彦
看護部長　　三上 陽子
摂食嚥下 NST 専従　　丹藤 淳

青森市で青森慈恵会病院公開講座「食事サポーター」認定ハンズオンセミナーを大盛況の中、開催することができました。当日は250名の様々な職種の方々や一般市民の皆様に参加していただき、この分野における関心の高さを肌で感じることができました。小山先生とは、約1年前からご縁があり、それ以降食に対する職員の意識が大きく変化し、現在では法人全体で食のあり方を考えていこうというところまでになりました。まだまだ試行錯誤の段階ですが、一人でも多くの方にとって良い経験にできるよう、病院だけでなく、関連施設も含め、横展開しつつあります。

きっかけとなったのが、1年以上も食べることを諦めさせられていた患者さんに対し、また自分で食べることができるよう多職種で関われた成功体験であったと思います。事例を通して、小山先生には技術的なことだけでなく、患者さんお一人お一人に対する関わり方などを教えていただきました。「食べる」という当たり前な行為に中に、様々な人生観を見出しながら、患者さんの物語に関わっていく、医療者が諦めたらダメなんだ、そんなことを学ばせていただきました。まさに、私達が目指す、よりよい地域包括ケアの実現に大きく関わる事例だったと考えています。 まだまだやることがたくさんありますが、これからも地域住民とともに、食のあり方について、一緒に学ぶ機会をどんどん増やしていき、それを通じて地域を明るくしていけたらと考えております。　（丹野雅彦）

当院では 2018 年より小山珠美先生のご指導のもと、本格的な食べるための取り組みを病院全体で取り組んでおります。今年も公開講座を 4 月 26 日に開催しました。今年は昨年以上の約 250 名の参加人数となり大盛況にて無事終了することができました。また今回の参加者には全国初の食事サポーターが適用されました。青森県は短命県返上の為、行政を中心に医療・福祉分野でも取り組んでいますが、まだまだ食べるための支援体制は十分とは言えません。今後は在宅、施設等とシームレスなケアを繋いでいけるよう食べるための支援の重要性を当院から発信していきたいと思っております。青森慈恵会病院は食べたいと願う患者さんや食べさせたいと願うご家族の心に寄り添い、食べる希望を叶えるために挑み続けます！　（三上陽子）

青森県は全国一の短命県です。脳卒中の発症率も全国ワースト1となっています。身近に脳卒中で食べることが困難となった方々を看護師としてこれまで多く見てきました。そして、人は食べる事への想いが最期まで生きるための望みとなるのだと強く感じていました。8年ほど前、始めて小山先生のお話を聞き、自分が看護師として目指す先はここにあると確信してきました。

現在青森慈恵会病院に籍を置き、この度このような大きなイベントを開催できました。医療関係者のみならず一般市民の方々にもたくさん参加していただき、ニーズの高さを強く感じました。「最期まで口から食べたい」という、当たり前の想いを遂げるために、当院初の「激熱！」な食支援が始まっています。これからの活動を、是非ご期待ください。

（丹藤淳）

2019.4.27 開催

丹野病院長挨拶

ハンズオンで不適切介助を経験

一般市民を含めた 250 名が参加

参加者の感想

- 一般の方を対象としていること、良いと思いました。専門職だけでなく市民が医療に関心を持ち参加することが大切ですね（看護教員）

- 今回参加してみて、授業では習っていないことをたくさん学ぶことができて良かったです。特に実際飲み込むことができないのを体験できて良かった。口から食べることの大切さを感じました。今回のお話を通して将来、進路選択の参考にしたいと思います。ありがとうございました。（大学生）

- テレビ番組の中で、胃瘻をしていた方が実際に食べることを始めて、みるみる元気になっていく姿を見て、改めて口から食べる大切さを知ることができて、良かったです。（介護福祉士）

- 多職種みんなが力を合わせて食事サポートしていきたいが、温度差がある。もっと多くの人に口から食べることの大切さを知ってほしい。介護士、看護師みんなで食べさせ方も学んでいきたい（管理栄養士）